

多くの遺産に感謝！

(三重県明和町長 世古口町長との突然の別れを悼んで)

2024年2月7日の三重県明和町長の突然の訃報に耳を疑いました。まだ57歳の若い町長がそんなはずはないと何度も確認をいたしました。



交通事故による世古口町長の突然の死は、自分にとって大変ショックな出来事でした。彼に最後のお別れをと、三重県明和町へ向かい、告別式に参列いたしました。

現職首長の告別式には、多く町民が、また、多くの関係者が集まり、周囲に渋滞を

【在りし日の世古口町長】 起こすほどでした。本当に無念の一言です。

まだまだ若いだけに、余計に残念です。世古口町長が描く町の未来、そして夢や希望がたくさんあったはずです。世古口町長とは、明和町長同志、お互いの町のことについて、いろんなことを話し、ともに考え、語り合ってきました。

三重県明和町の王朝ロマンの斎王まつりを案内やスーパーシティ構想による日本最大級の商業リゾート施設「VISION」や地域医療に携わる企業

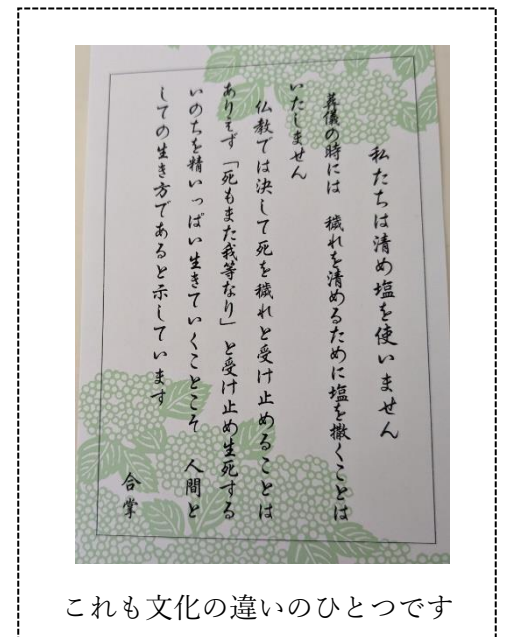
様との仲介役として、多くの方々を群馬県明和町と結び付けていただきました。

三重県明和町は伊勢神宮の門前町として栄えた町として文化財が多い町です。そのため他の地域よりも開発が進めにくいなか、群馬県明和町のように企業を誘致し、豊かな町にしたいと語り、私の3期目の初登庁にも駆けつけてくださいました。その際に、世古口町長の3期目の初登庁には必ず駆けつけると約束していましたが、その約束が果たせず残念でなりません。

そして、約500キロ離れた自治体で、人事交流を行ったのも世古口町長からになります。同じ「明和町」でも町の文化や物事の考え方の違い、多角的な視点による新たな町づくりの手法を学ぶ最高の職員研修となっています。

私達政治家は常に戦場にあり、いつ何があるかわかりません。今回の世古口氏の事故について、本当に深く考えさせられました。

この世は諸行無常です。私たちが経験するすべてのもの、つまり感情、思考、物質的な存在、さらには関係性や状況も、常に流動的であり、不変の状態に留まることはありません。例えば、喜びも悲しみも、健康も病も、若さも老いも、すべては一時的なものであり、変化の過程にあります。



これも文化の違いのひとつです

三重県明和町に 6 年前、世古口町長が誕生し、彼の人柄やリーダーシップから多くのことを学びました。そして今痛感しているのは、「私たちは時の流れに、より柔軟に適応し、変化に対して抵抗することなく、より強靱な心で生きることが大切である」と彼に教えられた気がします。

世古口町長、今まで大変ありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。

合掌

令和6年2月14日

群馬県明和町長 富塚もとすけ